

上部消化管内視鏡（胃カメラ）検査の説明書

患者 ID：

患者氏名：

様

1. 検査の目的

上部消化管内視鏡検査は、食道・胃・十二指腸の粘膜の状態を直接観察し、病気（炎症・潰瘍・ポリープ・がん）を見つけたり、適切な治療法を得るために行う検査です。

2. 検査の方法・手順

- ① 胃のなかの泡を消すためのシロップを飲みます。
- ② 胃の動きを止める注射は行いません。
- ③ 経鼻または経口内視鏡検査に応じて、「鼻」または「のど」の麻酔をします。
- ④ ベッドに横になり、内視鏡を「鼻」または「口」から挿入し、観察します。
- ⑤ 必要に応じて、色素（インジゴカルミンなど）の散布を行ったり、組織を採取して顕微鏡検査に提出する「生検」を行います。
- ⑥ 検査終了後はのどの麻酔が残っていますので、検査後約1時間は水分や軽食を控えてください。

3. 検査前日・当日の注意事項

- ① 検査前日の夕食は消化のよいものにし、夜9時までにお済ませください。
- ② 当日の朝は普段内服されている薬のうち血圧を下げる薬のみ内服してください。
- ③ 内服されている薬が分かるお薬手帳や現物を御持参ください。血をサラサラにする薬（抗凝固薬・抗血小板薬）を2種類以上内服している場合は、組織の採取（生検）ができない場合があります。
- ③ 検査1時間前までは水やお茶などの透明な飲料の摂取は可能です。（色のついたジュースなどは控えてください）
- ④ ご高齢の方は、ご家族に付き添っていただくようお願いいたします。
- ⑤ 検査当日の飲酒や喫煙は、控えて下さい。

4. 偶発症について（内視鏡による偶発症には、次のような報告があります）

- ① 基本的に、胃内視鏡検査は安全な検査です。しかし検査によってごくまれに出血や穿孔などの合併症・偶発症を起こすことがあります。非常にまれながら、死亡につながるような重篤なものも報告されています。※偶発症の発生率（生検を含む）…経口観察の場合 0.005% / 経鼻観察の場合 0.024%（日本消化器内視鏡学会雑誌 VOL58(9),2016）
- ② 検査前に使う麻酔や前処置薬でショックを起こすこともごくまれにあります。アレルギーのある方は、事前にお知らせください。
- ③ 色素散布により胸焼けなどの刺激症状や、アレルギーを起こすこともあります。
- ④ 検査中の嘔吐反射によって、まれに胃食道接合部が傷つき出血する（マロリーワイス症候群）こともあります。
- ⑤ 検査を受けることの負担によって、もともとあったご病気が悪化する危険性もあります。

以上のような「偶発症」は、最善の手段を尽くしても完全に防止することはできません。予期せぬことまで含めておこり得る可能性があり、偶発症の程度によっては、入院が必要となる場合がありますが、適切に対応します。

5. 検査費用について（3割負担の場合 合計約 5,000 円～14,000 円）

内訳は胃内視鏡検査（胃カメラ）：約 3,600 円、生検：約 3,500 円（1臓器につき）、初診料・再診料・点滴手技料（鎮静）など 1,500 円～3,600 円程度が加わります。

6. その他

ご不明な点、疑問点などがありましたら、いつでもご相談ください。